

(6) 永長の大草履

○永長地区ロング

53 1月中旬、宇和島市のとなり、

西予市宇和町の永長地区。

○橋の上にある大草履ロング

54 橋の上に大きなワラ草履が、
括りつけられています。

○橋の上UP

55 このワラ草履は一体何を
意味しているのでしょうか。

○永長の人々が作る

56 毎年、このワラ草履を作りかえる
人々がいます。

○関係者インタビュー

丹尾「昔と比べてどうですか、ちがうんですか」
関係者「いや、同じです。同じですけど、大きさが多少、あのね、作る人によって、まあ、大体同じような大きさになりますけど」

○設計図

関係者「だから誰かおに次々と教えておかないといけないということですよ。出来れば若い人に引き継いでいって、覚えてもらっとかんとですね」

○手伝う若い人たち

関係者「年行事というのは大体若い人になるんですけどランと若い人が組みましてね、1年間のいろんな部落の行事を手伝うんです」

○藁を巻きつける

57 竹の骨格が出来上がると、
それに今度はワラを巻きつけて行きます。

○お寺に着く軽トラ

58 翌日、出来たばかりの大草履が
地元のお寺に運びこまれます。

<p>○大草履を下ろして運ぶ</p> <p>○僧侶と大草履</p> <p>○念仏が始まるロング</p> <p>○数珠を回す人々</p> <p>○大草履を橋の袂に立てる</p> <p>○橋の上の大草履</p>	
	<p>59 この大草履は、愛媛県南部に昔から伝わる風習です。</p> <p>60 集落の入り口に置いて、ここにはこんなに大きい草履を履く大男がいるとみせかけ、悪疫の退散を願った、といわれています。そのため、みんなで大草履を回して祈念します。</p> <p>61 念仏が終わってから橋の袂に大草履がくくりつけられます。</p> <p>62 このようにして、1年間、地域の無事を祈るのです。</p>